

2023年3月1日に開催された「2022年度全学共通プログラム修了判定委員会及びデータサイエンス・プログラムWG合同委員会」では、2022年度の「データサイエンス・リテラシー（DSL）教育プログラム」の終了に当たって、その点検・評価・改善について審議した。

概要は次の通りである。

2022年度「DSL教育プログラム」の実施結果について、次の点が報告された。

- 2022年度「DSL教育プログラム」への参加者について説明があった。
- 「DSL教育プログラム」の2022年度における授業科目の履修者数について説明があり、本プログラムの立ち上げ以降、特に「法と情報」や「情報と職業」の科目において履修者数が増大したことの説明があった。
- 本年度、2名が本プログラムを修了したことについて報告があった。

2022年12月21日に開催した「データサイエンス・プログラムWG」での意見や報告を基に、本委員会で意見交換を行った結果は以下の通りである。

- 受講者の高校での学習状況や検定資格の有無など受講生のバックグラウンドが異なることから習熟度別クラスを設けることが望ましいとの意見があったが、クラス分けの基準が明確でないことやスタッフの問題などにより、当面は授業方法で対応することとし、制度的整備を含めた改善については今後更に検討することになった。
- 入学当初の学生にPC操作の不慣れな学生もいることから、初年次教育（教養演習）や各学科のオリエンテーションなどを通じてPC操作やWebClass利用について徹底させることになった。
- 本プログラムにおける諸科目間のレベル（入門科目か中級・上級科目か）について、カリキュラム・ツリーを作成することが望ましいとの意見があった。
- 「情報リテラシー」についても引き続き授業で扱う旨の報告があった。